
日本看護系学会協議会ニュースレター速報
2016年7月1日発行(2016.vol.2)

早いもので今日から7月。今年も折り返しとなりました。
今年から試みている「ニュースレター速報」の第2号をお送りいたします。
今回のお知らせは以下3点です。

1. [6月29日に社員総会が開催されました](#)
2. [災害看護支援のための募金を受け付け中です](#)
3. 新社員学会からのメッセージ
 - ◆ [北日本看護学会](#)
 - ◆ [日本ニューロサイエンス看護学会](#)

1. 6月29日に社員総会が開催されました

- ・平成27年度決算報告、及び平成28年度事業計画・予算案が承認されました。
- ・役員選挙のための選挙管理委員を推薦する3学会が承認されました。
- ・災害看護支援事業規程(案)について協議され、修正の上で承認されました。
- ・「災害看護支援金による活動助成金申請応募要項」は修正を反映した上で、社員学会の皆様にお送りする予定です。

2. 災害看護支援のための募金を受け付け中です

「災害看護支援事業規程」に則って、社員学会会員による熊本地震被災地での看護活動等への助成金とするため、ぜひ募金をお願いいたします。

三井住友銀行 神田支店

普通預金 口座番号 3189862

名義：一般社団法人日本看護系学会協議会

詳細は下記 URL からご確認ください。

http://www.jana-office.com/news/pdf/news_20160603_2.pdf

3. 新社員学会からのメッセージ

◆◆北日本看護学会◆◆

North Japan Academy of Nursing Science

理事長 塩飽 仁

北日本看護学会は、医療機関や地域などで看護実践活動している人々が一堂に集まり、日頃の取り組みや研究の成果を自由に発表し、討議や情報交換などの交流を通して刺激し合い、次の活動へつなげられるような会をめざして1997年に設立され、今年19年目を迎えました。

1996年の冬に当時山形大学医学部看護学科の教員4名が、将来展望について話し合う機会を持ちました。当時は、看護学の研究者育成は十分ではなく、研究成果や実践例を発表、論文投稿できる学会も少ない状況でした。またこれからは地域に密着した看護の学会が必要であり、若手の

実践者、研究者が気軽に参加できる、未来指向型のプラットフォームが必要になる、と意見は一致しました。

1997年1月に設立準備を始め、同年夏に設立総会と第1回学術集会を山形で開催しました。その後は東北地方を中心に会員が増え、現在は会員数がおよそ450名、発表演題は年に100題をかぞえるまでになりました。学会誌は年2回発刊しており、メディカルオンラインで電子配信しています。また、2002年からは公募による研究助成制度も開始しました。

近年はより専門性が高い学会が設立され、専門領域を扱う複合的な学会は規模が大きくなってきています。そのような動向のなかで、本学会のような middle-class platform が果たすべき役割はいつそう重要になってきていると考えています。

◆◆日本ニューロサイエンス看護学会◆◆

Japanese Academy of Neuroscience Nursing

理事長 田村 綾子

日本ニューロサイエンス看護学会は、2012年(平成24)に設立し、間もなく5年を迎える学会です。目的の一つに学術団体として活動することがあって、2015年(平成27)には日本学術会議協力学術研究団体に加入しました。さらに2016年3月には、待望の日本看護系学会協議会への加入が認められました。

中枢神経に損傷をきたした患者の皆様のADLとQOLの良好な回復のため看護職として専門性を発揮できる科学的な体系をつくることを使命としております。変化する日本や世界のニーズおよび看護ニーズに対応し、実践的かつ専門性を有する脳神経看護領域の学会として確固たるものに築いていく必要があると考えております。

多くの皆様の協力と支援をお願いし、進化・発展を続ける学会になるよう精進していきたいと考えております。

九州地方の豪雨が続く、被害が広がっているニュースに多くの方が胸を痛めていることと思います。心を寄せていることを表す一つの方法として、被災地での看護活動のための募金の輪が広がりますことを願っております。

日本看護系学会協議会

ニュースレター担当理事 武村雪絵（東京大学）